



〈雑録〉限界收益均等ノ原理 : "Grundlagen einer okonomischen Produktivirarstheorie" von Robert Liefmann (Conrad's Jahrbucher, ? Heft, 1912)ノ要點

丸谷, 喜市

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 14(1):93*-111*

(Issue Date)

1913-01

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051973>



限界收益均等ノ原理

„Grundlagen einer ökonomischen Produktivitätstheorie“ von Robert Liefmann (Conrad's Jahrbücher, III Heft, 1912)ノ要點

商學士 丸谷喜市

序言

獨逸ノ社會政策學會ガ一九〇九年ノ秋、グキーンノ總會ニ於テ『生産力』ト言フ問題ニ就テ討議シテ以來、彼ノ國ノ學者ハ屢々此問題ニ就テ思索ヲ凝ラシテ居ルモノト見ユル。リーフマン氏ノ此論文モ其總會ニ於テ論ジタ所ヲ敷衍シ、其際論ジ足ラナカツタ所ヲ明カニスルタメニ書カレタモノデアル。此論文ハ一九一二年ニ於ケル學問上ノ尊キ收穫ノ一ツデアルト、譯者ハ信ズルノデ其要點ヲ紹介スルコトニシタ。原文ハ

『生産力』ノ題下ニ書カレタモノデアルガ、限界收益均等ノ原理ト言フモノヲ提唱スルコトガ此論ノ眼目デアリ、且ツ値打デアルト思ツタカラ之ヲ表題トスルコト、シタ。

リーフマン氏ニ從ヘバ生産力ト云フコトニ關スル從來ノ學說ハ考ヘ方ガ誤ツテ居ルノデアル而シテ限界收益均等ノ原理ナルモノハ氏ノ此點ニ對スル新ラシキ見解ニ基ヅクモノデアル。我々ハ氏ノ積極的ニ主張スル所ヲ聞クニ先チテ、從來ノ生産力學說ニ對スル氏ノ批評ヲ一應聽イテ置カナケレバナラナイ。

一、技術的の生産力(數量的)

財トハ何ゾヤ、生産トハ何ゾヤ、富トハ何ゾヤ、之等ノ問題ニ對スル考ハ從來色々ニ變ツテ居ル。或ハ單ニ物財ノ取得ヲ以テ生産デアルト言ヒ、或ハ生産ト言フ事ハ道德的價值判斷ト離レテ考フベキモノデ無イ(即チ生産セラレタル物ノ價值ガ道德上カラモ肯定サレナケレバソレハ生産デ

ハナイ)ト言ヒ、或ハ交換價值ノ増加ガ生産デアルト言ヒ、或ハ使用價值ノ増加ガ生産デアルト言ヒ、或ハ無形物ノ生産ハ生産デアルト言ヒ又ハ生産デナイト言フ如ク、學者ノ説ハ古來幾度カ變遷シ、反復シテ居ルノデアルガ、其間一貫シテ常ニ多數ノ學者ノ思想ヲ支配シタモノハ技術的(數量的)ノ見解デアル。

技術的生產論トハ單ニ物財ノ數量ノ増加ヲ以テ生産ナリトスル考デアル。此見解ニ立ツモノハ何時デモ單ニ生産物ノ數量ノ多寡ノミヲ云々スルノデアル。乍併斯クノ如キコトハ——勿論吾人ノ經濟生活上無意義ノ事デハナイガ——リフマン氏ニ依レバ未ダ經濟上ノ意味カラ言フテ生産ト言フベキモノデハナイ。經濟上ノ見地カラ見テ生産ト言フ場合ニハ、單ニ數量ノ増加アルノミナラズ、價值ノ増加ガナケレバナラヌト言フノデアル(數量ノ増加ト言フコト、價值ノ増加ト言フコトハ必ズシモ並行スルモノデナ

イコトハ斷ハルマデモナイコト、信ズル)。從來ノ學者ハ往々ニシテ技術上ノ生産ト經濟上ノ生産トヲ混同シテ居ルノデアルガ、之ハ學問上カラ言フテ甚ダ遺憾ナ事デアル。

例ヘバ土地收穫遞減ノ法則ノ如キハ經濟上ノ生産力問題デハナクテ、技術的、數量的ノ生産力問題ニ過ギナイノデアル。勿論此場合ニハ費用ノ概念ハ這入ツテ居ル、而シテ費用ハ言フ迄モナク一ノ價值デアルカラ、人或ハ之ヲ以テ經濟上ノ生産ニ關スル法則ト考ヘルカモ知レナイガ、ソレハ誤テ居ル。此場合ニ於テハ勿論費用ノ觀念ハ入ツテ居ルニ相違ナイガ、而モ收穫ガ増シタトカ減ジタトカ言フノハ單ニ生産物ノ數量ニ就テ言フノデアツテ、其數量ノ増減ガ生産物ノ價值ニ如何ナル影響ヲ及ボスカト言フコトニハ論及シナイノデアル。然ルニ生産力ト言フコトヲ經濟的ニ考ヘル場合ニハ生産物ノ價值如何ヲ考ヘナケレバナラヌノデアル。デアルカラ

リフマン氏ニ從ヘバ土地收穫遞減ノ法則ハ經濟學ノ學理ト言フベキモノデハナイノデアル。收穫遞減ノ法則ノミナラズ一般ニ數量的生産論ハ經濟學ノ關スル所デハナイノデアル。氏ガökonomische Produktivitätstheorieト言ツテ表題ニ殊更、經濟的生産力ナル言葉ヲ入レタノハ此理由ニ依ルノデアル。尙、茲ニ言フタ事ノ意味ハ議論ヲ進メルニ從ツテ明カニナルコト、思フ。

一、經濟的の生産力 上述セル如クリー

フマン氏ハ單ナル數量ノ増加ヲ以テ技術上ノ生産トナシ、經濟上カラ生産トカ生産力トカ言フ場合ニハ之ニ價值ノ商量ガ加ハラナケレバナラヌト言フノデアル。デアルカラ假令如何ホド技術的(數量的)生産ハアツテモ、之ガタメ各經濟主體ガ享受スベキ價值若クハ價格ニ於テ損失ガアルナラバ、ソレハ經濟上カラ言フテ生産デハナイノデアル、而シテ效用遞減ノ法則ノ存スル以上、技術上ノ生産ハ必ズシモ經濟上ノ生産デ

ナイト言フコトハ何人モ認ムル所デアラウ。

以上ヲ以テ簡單ナガラ經濟的の生産ト言フコトハ略解ツタコト、思フガ然ラバ國民經濟上カラハ此問題ヲ如何ニ取扱フベキカト言フニ、此點ニ就テモ從來學者ノ考ガ誤ツテ居タノデアル。從來、學者ハ國民經濟ヲ、單一經濟ガ經濟デアルトト言フト同ジ意味ニ於テ經濟デアルカノ如ク考ヘテ居タ。而シテ國富トカ國民經濟的の生産力トカ言フコトヲ私經濟上ニ於ケル富トカ生産力トカ言フモノト同様ニ現實ノ事實デアルカノ如クニ考ヘテ居タ。併シナガラ之ハ誤テ居ル。國民經濟ハ實ハ一ノ經濟デハナクテ各經濟單位間ノ複雜ナル交換關係ヲ指スニ外ナラヌノデアルモウ少シ詳シク言ヘバ一國家ニ屬スル各人ガ交換ニ依テ相倚リ相扶ケテ其經濟生活ヲ營ンデ行く狀態ヲ指スモノニ外ナラヌノデアル。之ハ富トカ生産力トカ言フ言葉ニ就テモ同様デアツテ之等ハ嚴確ニハ唯私經濟(若クハ單一經濟)上ニ

於テノミノ事實ナノデアル。國民經濟上ニハ富トカ生産力トカ言フコトハ實ハ無イノデアル。

故ニ普通ニ國富ガ増シタトカ減ジタトカ、又ハ國民經濟の生産力ガ増シタトカ減ジタトカ言フノハ實ニ國民各個ノ欲望充足狀態ガ豐富ニナツタカ貧少ニナツタカヲ指スニ外ナラヌノデアル。最モ國富トカ國民經濟の生産ト言フ言葉ハ單ナル經濟上ノ記述又ハ統計ヲ試ムル上ニ於テハ便宜ナ言葉デアルケレドモ、學理ノ研究ニ於テハ斯ウ言フ言葉ハ避ケルノヲ至當トスル。

以上ノ如ク國富及ビ國民經濟の生産力ト言フ事ニ就テ誤レル見解ヲ持ツテ居タ從來ノ學者ガ之等ノ問題ヲ取扱フ上ニ於テ其態度ガ誤テ居タコトモ亦當然ノ成リ行キデアル。即チ國富トカ國民經濟の生産力トカ言フ具體的ナ或ル者ガ存在スル様ニ考ヘテ居ル彼等ハ、其國富及ビ國民經濟の生産力ソノモノヲ研究セントシ、國富ノ増減ヲ云々シ、國民經濟の生産力ノ増減ヲ計ル

ベキ尺度ヲ見出サウト努力シタノデアル。之ハ從來總テノ經濟學者ノ採ツタ態度デアルガ、此ノ如キ考ハ實ニ數量的生産ト經濟の生産トノ別ヲ辨ゼザルノ誤ニ出ヅルモノデアリ、且ツ國富ト言フコトガ現實ノ事實ニ非ザル以上斯クノ如キ努力ハ畢竟徒勞デアル。

然ラバリーフマン氏自身ハ此問題ヲ如何ニ考ヘヨウトスルノデアルカ、ト言フニ氏自身ノ言葉ヲ借りテ言ヘバ、氏ハ從來ノ學者ガ増カ減ノ問題ニ就テ考ヘタニ反シ最大ノ問題ニ就テ考ヘヨウト言フノデアル。詳言スレバ從來ノ學者ハ國富ヲ計カリ、其増減ヲ計カルベキ標準ヲ見出サウト努メタニ反シ、氏ハ一般ニ國民經濟内ノ一切ノ單位ガ——若シ國民經濟ト言フ語ヲ避ケルナラバ、相互ニ交換關係ニ立ツ一切ノ單一經濟ガ——可成の最大ノ所得ヲ得ベキ前提條件ヲ論ジヨウトスルノデアル。即チ從來ノ學者ハ生産力ソノモノヲ究メヤウトシタガ、氏ハ最モ生

産のナルベキ條件ヲ論ジヨウトスルノデアル、最モ生産のナル個人經濟及ビ國民經濟ノ組織ヲ論ジヨウトスルノデアル。單一經濟及ビ其雙互關係ノ如何ナル組織ニ於テ凡テノ人が最大ノ欲望充足ヲ得ルカラ研究シヤウト言フノデアル。

以上述べ來ツタ所ニ依テ略ボ明カナル如ク氏ノ説ニ於テハ效用遞減ノ法則ナルモノガ餘程重ク見ラレテ居ル。且ツ氏自身モ言フテ居ル如ク氏ノ所謂限界收益均等ノ原理ニ於テハ資本及ビ勞働ノ移轉ノ自由ト言フコト、及ビ個人ノ利己的聰明ト言フコトガ其前提トナツテ居ルノデアル。此點ニ關シテハヨホド異論ノアルコト、豫想シナケレバナナルマイト思フ。尙氏ノ説ハゴッセン (Hermann Heinrich Gossen) カラ「セント」ヲ得テ、之ヲ改善シタモノダト言フコトデアルカラ一言御斷リシテ置ク。

以上ヲ前置キトシテ次ニリーフマン氏ノ主張ヲ聞カウト思フ。

一、過剰ノ收穫ハ「生産的」ナリヤ

予(リーフマン)ハ予ノ生産力説ヲ述ブルニ就テ、予自身ガ此學理ニ到達シタ經路ニ依ラウト思フ。

嘗テマルセーユニ於テ米ガ過大ニ輸入サレタコトガアツタ。而シテ其タメニ米價ノ暴落スル虞ガアツタノデ、其輸入米ノ少カラザル部分ヲ燒キ棄テタト言フ事實ガアル。今試ニ此ノ如キ行爲ハ生産的ナリヤ否ヤト言フニ。從來ノ學說ニヨレバ、ソレハ不生産的デアルト言フノデアル。而シテ其理由ハ極メテ簡單デアアル、即チ其米ヲ食ハントスル人が尙多數ニ有ツタニ相違ナイカラ其レハ不生産的デアルト言フノデアル。乍併此見解ハ正當デハナイ。予ノ見ル所ヲ以テスレバ、此ノ行爲ガ國民經濟上カラ言フテ生産的デアアルカ否カト言フコトハ、其行爲ソレ自身デハ判斷スルコトハ出來ナイノデアル。次ニ尙

一ツノ例ヲ採ツテ見ヤウ。

米國其他ノ農業國ニ於テハ穀物が出來スギテ其全部ヲ收穫スルコトガ出來ナイト言フ様ナコトハ屢々起ルノデアルガ、斯ウ言フ場合ニハ其穀物ノ少カラザル部分ハ刈リ入ル、コトガ出來ナイタメニ空シク畑地デ腐テシマウノデアル。斯クノ如キ場合ニ於テ之ヲ刈リ取ルコトハ生産的デハアルマイカトハ何人モ疑フ所デアラウ。而シテ從來ノ數量の生産論カラ言ヘバ、此場合ニ於テモ其全部ヲ刈入ル、コトヲ以テ生産的ト言ハナケレバナラヌノデアル、而シテ其理由トスル所ハ其穀物ニ對シテ尙需要ガアルデアラウカラ、ト言フコトニアルノデアル。

併シナガラ試ニ此穀物ハ如何ナル事情ノ下ニ刈リ入ル、コトガ出來ルノデアラウカト言フコトヲ考ヘルナラバ以上ノ見解ニ對シテ色々ナ疑ガ起ラザルヲ得ナイ。言フ迄モナク此穀物ヲ刈入ル、ニハ勞力ヲ増サナケレバナラナイノデア

ルガ、然ラバ其勞力ヲ何處ニ仰グベキカト言フニ、之ハ他ノ産業カラ一時拔キ取ツテ來ナケレバナラヌノデアル此事ハ實際ニ於テ何ヲ意味スルノデアラウカ。

予ハ數年前北米合衆國ニ於テ此ノ如キ事實ヲ目撃シタ。一九〇七年ノ秋予ハ合衆國ノ西北ノ穀産地方ニ滯留シテ居タガ、其年ハ非常ナ豐作デ農業者ノ組合ハ到ル處ノ都市ニ募集所ヲ設ケテ勞働者ヲ田舎ヘ導カウトシテ居タ。彼等ハ一日一弗半乃至三弗ト言フ高イ賃銀ヲ提供スルノミナラズ、其目的地マデノ勞働者ノ汽車賃ヲモ負擔スルノデアル。斯ウ言フ譯デ種々ノ工業商業ニ従事スル勞働者及學生中ヨリ轉ジテ田舎ノ勞働ニ赴クモノガ甚ダ多カッタ。併シナガラ之デモ勞力ノ供給ハ到底充分ナルヲ得ナイソレデ聖ポールニ於ケル予ノ旅館ニ於テハ穀産地方ノ知事ガ會議ヲ開イテ勞力不足ニ應ズベキ方策ニ就テ凝議シテ居ル有様デアッタ。然ルニ同時ニ

他方ニ於テハ工業上ノ企業家モ亦集會ヲ開イテ勞働者ノ工業ヲ捨テ、田舎ニ去ルコトヲ防グタメニ屢々賃銀引上ゲノ決議ヲシタ。併シナガラ事實ニ於テ多數ノ農業者ハ其穀物ノ全部ヲ刈入ル、コトハ出來ナカツタ。ソレハ賃銀ガ餘リニ高カツタ爲メデアル。而シテ其處此處ニ穀物ガ收穫サレズシテ腐テ行クト言フ事が新聞紙ニ依テ傳ヘラレタ。

然ラバ何故ニ農業者ハ之ヲ收穫シナカツタカト言フニ、ソレハ言フ迄モナク、賃銀ガ餘リ高イタメニ其穀物ヲ刈取テモ引キ合ハナイカラデアル。且又彼等ハサナキダニ低落セル穀物ノ市價ヲ更ニ下落セシムルノ虞アルコトヲ思ハナケレバナラナカツタノデアル。從來ノ學說ヲ奉ズルモノハ或ハ言フカモ知レナイ、ソレハ全ク私經濟的收利力ノ立場カラスル議論デアル、企業家ノ利害カラスル議論デアルト。併シナガラ之ハ誤テ居ル。否、反對ニ農業者ハタトヒ何等ノ

利益ヲ得ル能ハズトスルモ、尙穀物ヲ收納スベシトノ議論ハ唯一部ノ穀物消費者ノ要求ニ出ヅル僻論デアツテ、此ノ如キコトハ國民經濟上カラ言フテ最モ有利ナ方法デハナイノデアル。以上ノ場合ニ於テ穀物ノ一部ヲ收穫シナイ方ガ個人經濟上ノミナラズ、國民經濟上カラ觀テモ、ヨリ多ク生産的ナノデアル。何故カト言フニ、農業家ハ從來他ノ產業ニ從事シテ居タ勞力ヲ一時抜キ取ツテ來ナケレバ其穀物全部ヲ刈取ルト言フコトハ出來ナイノデアルガ、今他ノ產業ニ於ケル賃銀ガ甚ダ高イタメニ農業者ハ最早一人モ勞働者ヲ得ル能ハザルカ、若クハ、タトヒ勞働者ヲ得ルトモ賃銀ガ高イタメニ引合ハナイト言フ事情ガアルナラバ、ソレハ之等ノ勞力ヲ農業ニ用ヒズシテ他ノ產業ニ使用スル方ガ更ニ有益デアルト言フコトヲ意味スルモノデアルカラデアル。之ヲ他ノ方面カラ言ヘバ之等農業以外ノ企業家ハ其生産物ニ依テ農業ニ於ケルヨリモ

大ナル利益ヲ得ルガ故ニ其勞働者ニ對シテ農業ニ於ケルヨリモ高イ賃銀ヲ支拂ヒ得ルノデアル然ラバ彼等ハ何故ニ農業者ニ比シテ大ナル利益ヲ舉グルカト言フニ、其レハ其生産物ニ對シテ一層急迫ナル需要ガアルカラデアル。即チ此ノ如キ商品ニ對シテ尙高キ代價ヲ支拂ハウトスル消費者ガアルカラデアル。更ニ言葉ヲ換ヘテ言フナラバ、豐作ノ結果穀物ノ供給ガ過夥トナリ穀物ノ需要ハ充タサレ、穀物消費者ノ購買力ハ減少セルニ反シ、他方ニ於テ穀物以外ノ生産物ニ對シ遙カニ大ナル購買力ト、遙カニ緊張セル需要トガ充タサレズニアルト言フコトヲ示スノデアル。即チ穀物ニ對スル需要緊張ノ度ガ他ノ生産物ニ對スルソレヨリモ以下ニ下ツタト言フコトデアル。

我々ハ又、如何ナル需要モ完全ニ満足サレ得ベキモノデハナイト言フコトヲ注意シナケレバナラス。經濟行爲ノ本質及ビ其存立ノ意義ハ

「經濟財」ノ供給ガ有限デアルト言フコトニアルノデアル。デアルカラ我々ハ以上ノ實例ニ於テ其米穀ヲ食ハント欲スルモノガ尙澤山アルダラウト言フコトヲ考ヘル必要ハナイ。又彼等ガソレヲ消費スルコトハ甚ダ有益デ且ツ望マシイコトデアルト思フタナラバ其レハ誤デアル。我々ハ却テ「之等米穀ニ對スル需要ガ充タサル、場合ニ於テ、他ノ更ニ急迫ナル欲望ハ充タサレザル儘ニ放置サレナケレバナラスノデハアルマイカ」ト言フコトヲ考ヘナケレバナラス。果シテ他ニ急迫ナル需要ノアリヤ否ヤハ——後ニモ述ブルガ如ク——現時ノ交換經濟組織ニ於テハ利潤ノ關係ニ依テ知ラル、ノデアル。詳言スレバ他ノ種類ノ需要ニ應ズル産業ノ利潤ノ大小ニ依テ知ラル、ノデアル。

故ニ上ノ如ク、尙米穀ヲ食ハントスル者アルベシトノ理由ヲ以テ、米穀ノ全部ヲ刈入レ又ハ販賣スルコトヲ生産的ナリトナスノ議論ハ主ト

シテ、未ダ米穀ニ對スル需要ノ充タサレザル消費者ノ立場ヨリスル議論デアル。之ニ反シ、ヨリ高キ價值判斷ノ對象タル他ノ財ノ供給ヲ妨ゲザル限度ニ於テ、其米穀ガ收穫サレ販賣サル、ナラバ、其レハ國民經濟上カラ見テ生産のデアアルノデアアル。デアアルカラ穀物ヲ全部收穫スルト言フコトハ、他ニソレ以上ノ強度ヲ有スル需要ノ無イ場合ニ於テノミ生産的ナノデアアル。

二、資本及ビ勞働ノ正當ナル分布

試ミニ上述第一例ニ立戻ツテ輸入米ノ一部ヲ棄却スルコトナク、其全部ヲ販賣シタナラバソレハ果シテ生産的ト言フベキカト言フニ決シテソウデナイ、ト言フコトハ前ニ述ベタ所デアアル。蓋シ此場合佛國ノ消費者ガ安イ米ヲ多量ニ消費スルト言フコトハ輸入者ノ利益ノ減少ヲ意味シソノ爲メニ彼等ノ他ノ財ニ對スル輸入力購買力ヲ減ズルカラデアアル。然ラバ反對ニ米ノ一

部ヲ棄却シタコトハ生産的ノ行爲デアルト言ヒ得ルカト言フニ、サウデモナイ。何トナレバ之ニ依テ棄却サレタ部分ノ輸入ニ費サレタ資本ハ無益ニ支拂ハレタコト、ナルカラデアアル。之ニ於テ我々ハ一ツノ極メテ重要ナル斷案ヲ下スコトガ出來ルノデアアル。即チ此場合ニ於テ米ノ一部分ガ棄却サレ又ハ販賣サル、ト言フコトハ、其生産的ナリヤ否ヤト言フコト、ハ關係ガ無イト言フコト之デアアル。國民經濟上カラ言フテ生産的ナリヤ否ヤノ問題ハ實ハ遙カニ前キノ時點ニ於テ決定サレテ居ルノデアアル。蓋シ斯ク多量ノ米穀ヲ輸入シタト言フコトガ既ニ國民經濟上カラ見テ不生産ナコトデアツタノデアアル。即チ米穀ノ供給ト言フコトニ過多ノ資本ト努力トヲ費シタト言フコトガ既ニ不生産的ナ行爲デアツタノデアアル。何故ニ不生産的デアツタカト言フニ若シ其資本ト努力トヲ他ノ方面ニ利用シタナラバ更ニ大ナル利益ヲ齎シタ筈デアアルカラデアアル

斯クノ如ク我々ノ言フ國民經濟の生産力ノ問題即チ最大ノ國富ト言フ問題ハ、利用サレ得ベキ財ノ量ニ關スル問題ニ非ズシテ、國民經濟ノ組織ニ關スル問題ナノデアル。換言スレバ一定ノ財ノ供給(若クハ一産業)ノタメニ使用セラルベキ資本及ビ勞力ト、國民經濟全般ニ亘テ利用サレ得ベキ資本及ビ勞力トノ正當ナル關係如何ト言フ事が問題デアルノデアル。蓋シ最大ノ國富増進ト言フコトハ後ニモ述ブル如ク、諸種ノ財ノ供給ニ費サル、資本及ビ勞力ノ量ハ正當ナル關係ニアル場合ニ於テ初メテ實現サル、ノデアル。

然ラバ此ノ如キ「正當ナル關係」トハ如何ナルモノデアルカ、語ヲ換ヘテ言ヘバ一國民經濟内ノ資本及ビ勞力ガ各種ノ産業ニ如何ニ分布セラレタナラバ國民ノ最大幸福ト言フコトガ期待サル、ノデアルカ、ト言フニ开ハ一般ニ收益ノ關係ニ依テ知ルコトガ出來ルノデアル。詳言スレ

バ其産業ニ干與スル者ノ利得、其種企業ノ利潤及ビ勞働者ノ受クル賃銀ニ依テ知ラル、ノデアル。例ヘバ前例米ノ輸入ハ何時カラ不生産的トナルカ、即チ最大國富ノ原理ニ反スルコト、ナルカト言フニ、ソレハ若シ其資本ヲ他ニ利用シタナラバ更ニ大ナル利益(收益)ヲ擧ゲ得ベキコトナリシ、ソノ時點カラ不生産的トナツタト言フベキデアル。換言スレバ米價ノ下落ガ豫想サレ輸入者ノ利得ガ減少スルト言フコトハ過多ノ資本ガ米ノ輸入ニ費サレタト言フコトヲ示シ、米ノ供給ハ増加スル一方ニ其消費者ノ購買力ハ減少シ、他ニ米以外ノ財ニ對シテソレ以上ノ購買力ト其レ以上強度ノ需要ヲ有スル人アルコトヲ示シ、隨テ若シ米ノ輸入ニ費サレタ資本ヲ他ニ轉用スルナラバ、私經濟上ニハ一層有利ニ又國民經濟上ニハ一層生産的ナルベカリシコトヲ示スノデアル。

以上ハ不生産的ナル輸入ノ例デアルガ、國內

ノ産業ニ就テ同様デアル。例ヘバ穀物ノ生産ハ農業家ノ支拂ヒ得ル賃銀ガ他ノ産業ニ於ケルヨリモ低クナツタトキハ予ノ言フ意味ニ於テ生産的デアル。若シクハ——理論的ニハ同ジコトヲ指スノデアルガ——農業家ガ勞働者ヲ得ルタメニ支拂フベキ賃銀ガ彼ニトツテ餘リ高イタメニ他ノ一般ノ産業ト同様ナル利益ヲ舉ゲルコトガ出來ナクナツタトキハソレハ最早不生産的ナノデアル。此理論ハ勿論、資本及ビ勞力ノ完全ナル移轉ノ自由、及ビ各經濟主體ガ充分ニ經濟事情ヲ透見スルノ明アルコトヲ前提トスルモノデアル。併シナガラ若シ永イ時間ニ就テ觀察スルナラバ、而シテ經濟政策ノ干渉ガナイナラバ實際生活ハ略ボ適確ニ以上ノ規準ニ從フテ居ルコトヲ知ルデアラウ。

故ニ我々ハ次ノ如ク言フコトガ出來ル。一般ニ可成の最大ノ國富ト言フコトハ、各種産業ニ使用サル、資本及ビ勞力ノ量ガ、其産業ノ平均

ノ收利力ヲシテ他種産業ノソレト略ボ同一ナラシムル如キ程度ニアリ、之ヨリモ多カラズ又少カラザル場合ニ於テ可能デアル。而シテ實際ニ此收利力ヲ比較スルニハ各種産業ノ（投機的）危險ノ程度ヲモ斟酌スベキコト勿論デアル。

此關係ハ所謂限界效用說ノ說キ方ヲ應用スルトキハ最も明確ニ言ヒ現ハスコトガ出來ルト思フ。限界效用說ノ創設者ハ之ヲ以テ價值ノ現象ヲ闡明セントシタノデアルガ予ノ見ル所ヲ以テスレバ此說ハ費用及ビ收益ノ學說トシテ最も價值アルモノデアル。今此說ノ根本ニ横ハル原理ヲ收益論ニ應用スルトキハ次ノ如ク言フコトガ出來ル。國民經濟上最大ノ生産力ト言フコトハ國內ノ資本及ビ勞力ガ、各種産業ノ限界收益ヲシテ略均一ナラシムル如クニ分布サル、場合ニ於テ初メテ可能デアル。換言スレバ各種産業ノ限界收益ガ（各産業ノ危險ノ程度ヲ斟酌シテ）他ノ一般産業ニ普通ナル限界收益ヨリモ少カラザ

ル場合ニ於テ（即チ其産業ニ於テ他ト權衡ヲ失スルホド過大ノ資本ガ注入セラレザル場合ニ於テ）國民經濟上最大ノ生産ト言フコトガアルノデアル。茲ニ限界收益トハ其産業ニ對シ最後ニ資本及ビ勞働ヲ注入シタ經濟主體ノ獲得スル收益（利潤）デアル。吾人ハ此命題ヲ限界收益均等ノ原理（若クハ法則）ト呼ブコトガ出來ル。永キ時間ニ就テ言フナラバ、實際上經濟生活ハ略ボ完全ニ此法則ニ從フテ居ルノデアル。而シテ此法則ノ實現ヲ妨グルモノハ種々ノ獨占デアル。

予ハ以上ニ於テ單ニ最大生産力ト言フコトノ條件ヲ述ベタノミデ、從來學者ガ試ミタ如ク其生産力ナルモノヲ量ルベキ尺度ヲ得ルニハ至ラナカツタ。而シテ其代リニ最大ノ生産力若クハ國富ト言フコトヲ識別スベキ一ツ標識ヲ知ルコトヲ得タノデアル。蓋シ限界收益ガ均等ニ歸スルト言フコト（實際的ニハ諸種ノ産業ニ於ケル平均ノ收益ガ略ボ均等ニ歸スルコト、同ジニ考

ヘテ差支ガナイ）ハ資本及ビ勞力ガ國民經濟上カラ見テ最モ生産的（有利）ナル方法ニ於テ利用サレテ居ルト言フコトヲ示スベキ一ノ表彰デアルカラデアル。

三、單一經濟ニ於ケル限界

收益均等ノ事實ト私經濟的收利力

此ノ如キ限界收益均等ノ原理ハ實ニ國民經濟生活ノ上ニ現ハル、ノミナラズ、個々人ノ經濟生活、隨テ交換ナキ經濟ニ於テ等シク最大幸福ノ原理タルヲ失ハヌノデアル假リニコビンソンクルーソーガ他ニ一層強度ノ欲望アルコトヲ顧ズニ唯一ツノ目的ニノミ其勞働ヲ費スナラバ彼ハ疑モナク最大ノ經濟若クハ最大幸福ノ原理ニ反シタコトヲシテ居ルノデアル。之ハ最モ簡單ナ形式ニ就テ考ヘタノデアルガ此場合ニ於テモ單ニ絶對的ニ見テ最モ強度ナル欲望ノ充足ト言

フコトガ問題デハナクテ、最大ノ收益(差額)ヲ得ル如キ欲望充足ト言フコトガ目的トナルノデアル。(譯者曰、結局之ハ同ジコトニナリハシマイカ)詳言スレバ欲望(即チ效用價值)ト勞費(若クハ犠牲、此場合ニハ勞働)トノ開キガ最も大ナル如キ欲望充足ヲ目的トスルノデアル。即チ此ノ如キ場合ニ於テハ勞費ト之ニ伴フ苦痛トニ對シ最も大ナル享樂ヲ得ントスルノデアル。斯クロビンソント雖モ絶對的ニ考ヘラレタル最大ノ價值ヲ目的トスルモノデハナクテ、收益(即チ差額)ヲ目的トスルノデアル。而シテ彼ニ取テモ穀物ノ生産過多ナル場合ニ他ノ欲望ヲ顧慮スルコトナクシテ其勞力ノ全部若クハ大部分ヲ其穀物ノ刈入レニ費スナラバ、开ハ勿論不生産的デアツテ此點ニ於テハ國民經濟ニ就テ言ツタト毫モ異ナル所ガナイノデアル。今日ノ經濟學ハ一般ニ以上ノ事實ヲ看過シテ、經濟主體ハ先ヅ最も急迫ナル欲望ヲ充タストノミ説明シ、收益

(積極價值即チ結果ト、消極價值即チ勞費トノ差額)ガ凡テノ人間行動ノ目的デアルコトヲ忘レテ居ルノデアル。學者ハ皆、經濟ノ本則トシテ一定ノ犠牲ニ對シ最大ノ餘剩ヲ得ントスル努力ナルモノヲ認メテ居リナガラ、此事ハ消費財ノ自己生産ニ於テモ眞實デアルコト、即チ此場合ニ於テモ一種ノ利潤ガ目的デアルコトヲ往々ニシテ看過シテ居ルノデアル。斯クテ「四拾圓デ買ツタ上衣ハ四拾圓ノ價值ヲ有ス」ト言フ様な謬見ガ行ハレルノデアル。(此論ハマーシャルノ消費者餘剩ノ説ヲ以テスルモ半バ破ラルベシ)予ノ知ル所デハ此事實ヲ認メタモノハマーシャルトバツテンノ二人アルノミデアル。彼等ハ共ニ消費者餘剩ナルモノヲ認メタガ未ダ一般ノ收益論(餘剩論)ニハ到達シナカツタノデアル。此ノ如ク一切ノ經濟主體ハ孤立セルト交換經濟關係ニ立ツトラ問ハズ、常ニ最大ノ收益ヲ得ント努ムルモノデアル。而シテ最大ノ收益ヲ得

ンガタメニ吾人ハ一定ノ財ニ對スル欲望充足ヲシテ其限界收益即チ最後ノ分量ヨリ受クル收益(差額)ガ他ノ欲望充足ニ於ケル收益ヨリモ少クナラヌ程度ニ止メナケレバナラヌ(若シ同種ノ欲望ノミヲ充足シテ居ルトキハ其限界收益ハ他ノ欲望充足ニ於ケル限界收益ニ比シテ甚ダ小サイモノトナル)此クノ如ク個々人ノ經濟ニ於テモ國民經濟ニ於ケルト同様ニ限界收益均等ノ法則ハ最モヨク幸福ヲ増進スベキ所以ノ原理デアルノデアル。

此最大幸福ノ原理ハ亦之ヲ最大經濟主義ノ原理ト呼ブモ差支ガナイ。何トナレバ吾人ハ限界收益均等ノ法則ニ從ツタ場合ニ於テハ全體カラ見テ最大ノ價值ヲ享受スベク、又若シ一ノ欲望ヲ限界收益ノ均等ト言フ範圍ヲ超ユルマデ充足スルナラバ吾人ノ享クベキ全體トシテノ價值ハ之ガ爲メニ減少ヲ來スベキコトハ何人モ容易ニ認ムベキ所デアルカラデアル。而シテ恰モ之ト

同ジ事ガ國民經濟上ニ於テモ言ヒ得ルノデアル即チ國民經濟ノ全收益ハ限界收益均等ノ法則ガ完全ニ行ハレタトキニ最モ大キイノデアル。故ニ國民經濟學ニ於ケル最大ノ國富助長ト言フコトハ最大ノ經濟主義ト同ジ事トナルノデアル。

併シナガラ國民經濟ノ全收益ト言フコト、其國民經濟内ノ個々ノ單一經濟ノ收益トハ當然一致スルカト言フニ、サウハ言ハレナイ。例ヘバ今或ル企業ガ非常ニ大ナル利潤ヲ擧ゲテ居ルト言フ場合ヲ假想スルニ开ハ或ハ他人ノ利益ヲ犠牲トシテ(例ヘバ獨占ナドノ如ク)トシテ其如キ利潤ヲ得テ居ルノカモ知レナイ。デアルカラ一企業ノ私經濟の收利力ノ増加ハ必ズシモ國民經濟上ニ於テ富ノ増加ヲ意味スルモノデハナイ。故ニ一企業ノ國民經濟的生產力(收利力)ト言フコトハ立言スルコトノ出來ナイモノデアル。併シナガラ人若シ個々ノ企業ノ收利力ヲ問ハズシテ、凡テノ企業ノ全體ノ最大收利力如何ヲ問フ

ナラバ限界收益ノ均等ト言フコトハ之ヲ知ルノ標識デアルト言フコトガ出來ル。而シテ國民經濟上カラ見テ最大ノ生産力ト言フコト、單一經濟全體ノ最大ノ私經濟的收利力ト言フコトハ同一ニ歸スルノデアル。

斯クノ如ク限界收益均等ノ法則ハ既ニ述ベタ如ク單一經濟ニ於テモ、又全體トシテノ國民經濟上ヲ見テモ眞實デアルガ、國民經濟上カラ言ヘバ此原理ハ個々ノ企業ノ間ニ現ハレズシテ、企業ノ種類ト種類トノ間ニ現ル、ノデアル。即チ資本及ビ勞力ハ大ナル收利力ヲ目ザシテ一種ノ企業ヨリ他種ノ企業ニ移テ行クノデアル。デアルカラ之ヲ同一種類ニ屬スル各個ノ企業ノ利潤ガ均等ニナルト言フ事ダト誤解シテハナラヌ自由競争ノ下ニ於テハ生産物ノ價格ハ何レノ企業家ニ依テ造ラレタルヲ問ハズ殆ンド均等デアツテ個々ノ企業ノ生産及ビ販賣費トハ關係ガナイノデアル。故ニ一種類ノ産業ニ於テハ利潤ハ

企業毎ニ大ナル相違ヲ見ルコトガアルノデアル。而シテ最大國富ノ原理カラ言ヘバ各企業間ノ利潤ノ關係ガ問題デハナクテ、一種ノ産業ノ平均ノ利潤ト他種産業ノ平均ノ利潤トノ權衡ト言フコトガ問題ナノデアル。今若シ或ル産業ニ於テ多數ノ企業家が普通以上ノ收益ヲ舉ゲテ居ルト言フ事實ガアルナラバ、之ヨリ推論シテ此種企業ノ生産物ニ對シテハ他ニ比シテ一層急迫ナル欲望(需要)ガ存スルト言ヒ得ルノデアル。又反對ニ或ル産業ヲ目的トスル企業家ノ多數ガ他種ノ産業ニ比シ極メテ貧少ナル利潤ヲ舉グルニ過ギナイト言フ事實ガアルナラバ、之ヨリ推論シテ少クモ其時ニ於テハ其生産ハ需要ニ超過シテ居ルト言ヒ得ルノデアル。而シテ斯カルコトハ經濟主義ニ反スルノデアル。何トナレバ其資本及勞力ヲ以テ他種ノ需要ヲ充タスナラバ更ニ大ナル利潤ヲ舉ゲ得タ等デアルカラデアル。

譯者曰、以上ニヨリマルクスノ Mehrwert(餘

剩價值)ノ思想ガリーフマンニ依テ著シタ普遍化サレタコトヲ認メナケレバナラヌ、此點リーフマンノ大ナル效績デアルト思フ。即チマルクスノ餘剩價值ハ企業利潤ヲ指スニ外ナラヌノデアルガ、リーフマンノErlös(收益)ハ非交換經濟ニモ存スルノデアル、否一切ノ經濟行爲ハErlösヲ目的トスルノデアル。但シリーフマンノ考ヲ現ハスニハマルクスノMehrwertナル言葉ガ遙カニ適切デアルノニ却テErlösト言フ色々ナ意味ヲ有ツタ不便ナ言葉ヲ用ヒタノハ如何ナル故意デアラウカ。尙譯者ハ此Mehrwert若クハErlösナル思想ハ實ニ經濟行爲ノミナラズ一切ノ人間行爲、一切ノ目的活動ニ及ボシテ考ヘタナラバ一層興味アルコトデアリ、且ツ學問上有益ナコトデアルト思フテ居ル。

四、限界收益均等ノ原理

ト價格

以上論ズル所ニヨリ予ノ生産力説ガ國民經濟

學ノ第一原理ト密接ノ關係アルコトハ何人モ認ムル所デアラウ。限界收益均等ノ原理ハ價格ノ原理ト密接ノ關係ガアルノデアアル、而シテ從來ノ價格論ハ之ニ依テ大ニ變更サレナケレバナラヌノデアアル。從來ノ價格論ハ常ニ敎ヘテ言フ價格ハ消費者ノ價值判斷ト、需要ヲ充タスニ必要ナル生産者中最後ノ者ノ生産費(最高生産費)ニ依テ定マルト。例ヘバフイリツポウイツチハ價格ハ或ル一定ノ範圍内ニ於テ決定セラルベキモノトナシ、其範圍ハ上方ニ於テハ最後ニ交換關係ニ入り來ル購買者(買ヒタルモノ、中最モ低キ價值判斷ヲ有ス)ノ價值判斷、及ビ交換ヨリ排除サレタル販賣者中最モ安ク賣ラントセルモノ、價值判斷ニ依テ限ラレ、下方ニ於テハ實際交換關係ニ入レル販賣者中最モ高キ價ヲ有スルモノ、及ビ交換關係ヨリ排除サレタルモノ、中最モ高ク買ハントセル購買者ノ價值判斷ニ依テ限ラル、ト言テ居ル併シ此ノ如キ命題ヲ以テシ

テハ如何ニシテ一ノ價格ガ成立スルヤハ毫モ說明サレテ居ナイノデアル。何故ニXノ價值判斷ヲ有スル者ガ最後ノ購買者トシテ交換關係ニ入り來ルノカ。或ハ答ヘテ、ソレハ其レ以上供給ガナイカラデアルト言フカモ知レヌガ、然ラバ何故ニ最早ソレ以上賣ルモノガ無イノデアラウカ。又何故ニ交換關係ヨリ除斥サレタル賣手中最モ低イ價格ヲ有スルモノ——假リニ其人ハYノ原價ヲ有スルモノトスル——ハ賣ルコトガ出來ナカツタノデアラウカ。從來ノ價格論ハ此問題ニハ答ヘテ居ナイノデアル。彼等ハ供給及ビ生産費ヲ一定ノ與ヘラレタル大サノモノトシテ考ヘテ居ル而シテ需要ノ強サト生産費トガ一致スル點マデ交換ガ行ハル、モノトシテ考ヘテ居ルノデアル。

ベーム、バウエルクノ意見モ亦同様デアル。

ベーム、バウエルクハ其有名ナル價格決定ノ原因ヲ擧ゲテ(一)買ハントスル者ノ數(二)其需要

スル財ノ量(三)財ニ對スル買手ノ價值判斷(四)買手ノ價格財(貨幣)ニ對スル價值判斷(五)賣手ノ數(六)提供サレタル財ノ量(七)賣手ノ財ニ對スル價值判斷(八)賣手ノ價格財ニ對スル價值判斷ノ八トナシテ居ル。此場合ニモ他ノ價格論ト一般ニ之等ハ皆ソノ大サガ確定セルモノトシテ論ゼラレテ居ルノデアル。併シナガラ其賣手ノ數ヤ、供給サレシ財ノ量ハ如何ニシテ定マルノデアラウカ。假リニベーム、バウエルクノ例ヲ借ルガ、例ヘバ十萬人ノ人ガ外套ヲ得ント欲スル場合ニ何故ニ唯一萬ヨリ供給ガナイト言フ如キコトガ起ルノデアラウカ。之ハ價格論ニ於テ當然證明スベキ問題デアルガ、從來嘗テ之ガ説明ヲ聞カヌノデアル。蓋シ予ノ見ヲ以テスレバ此現象ハ限界收益均等ノ法則ヲ以テスルニ非ザレバ説明スルコトガ出來ナイノデアル。我々ハ個人經濟及ビ國民經濟ニ於ケル此法則ノ働キニ依テ純主觀的ナル欲望ヨリ客觀的ナル價格ガ生

ズルニ至ルノ經過ヲ説明スルコトガ出來ルノデアル。即チ個々ノ經濟主體ハ先ヅ此法則ニ從テ其欲望ノ強度ト充足手段トノ調和ヲ計リ、カクテ需要ノ程度ハ定マル。又國民經濟上ニ於テハ此法則ニ從テ供給トガ定マルノデアル。

メンガー、ジエヴオンズ、ベーム、バウエル

ク、マーシャル等ハ常ニ供給ヲ需要トハ關係ナシニ初メヨリ一定ノ大サヲ有スルモノト假定スル。次ノシユモラーノ言葉モ亦此考ヲ現ハスモノデアル。シユモラー曰ク『供給トハ一定ノ時一定ノ市場ニ於テ販賣ノタメ提供サレ、又ハ普通ノ取引期間ニ於テ提供サル、モノト期待サルル一定ノ種類ノ財ノ量デアル。需要トハ其時、其市場ニ於ケル購買力アル購買者ノ其財ヲ得ントスル願望デアル』併シナガラ此ノ如キ定義ハ寧ロ交換經濟現象ノ闡明ヲ妨グルモノデアル。供給トハ自由競争ノ下ニ於テハ——自由競争ト言フコトハ常ニ價格論ノ出發點デアル——生産

サレ得ベキ財ノ全量デアル。即チ現在ノ生産手段ヲ以テ生産サレ得ベキ財ノ總額隨テ秩序アル國民經濟ノ下ニ於テ生産セラレ得ベキ財ノ總額デアル。併シナガラ供給ハ決シテ初メヨリ定マル數額デハナク、又供給トハ此與ヘラレタル財ヲ得ントスルノ願望デモナイ。換言スレバ之等ハ其數額時及ビ場所ニ於テ確定セルモノデハナイノデアル。需要トハ個々人ノ交換經濟上ノ欲望(勿論購買力アル)ノ全體ヲ謂フノデアル。此需要ニ對スル生産者ノ判斷ニ依テ供給ガ定マルノデアル。然ラバ斯クシテ供給ヲ按配スルニ當テ生産者ノ考ヲ動カスモノハ何デアルカ、ト言フニ、之ニ對シテハ嘗テ予ガ『收益及ビ所得』ト言フ論文ノ中ニ言タ次ノ言葉ヲ以テ答ヘルコトガ出來ル。曰ク『需要ハ常ニ大デアル』『併シナガラ需要ハ生産者ノ收益ニ依テ制限セラレ、充分ニ充足セラレ、コトハ無イノデアル。或ル種ノ企業ニ於ケル資本及ビ勞力ハ其企業ニ於ケ

タル事ハ既ニ述ベタ如クデアアル (完)

ル收益ガ一定ノ限度以下ニ下ルトキハ他ノ更ニ有利ナル企業ニ轉用セラル、ノデアアル。而シテ或ル種ノ企業ニ於テ他ヨリ大ナル收益ガアルト言フコトハ其生産物ニ對シテ消費者ガ尙大ナル價值判斷ヲ下シ、而モ其需要ガ尙充タサレヌハ言フコトヲ示スノデアアル』即チ供給及ビ價格ハ收益ノ關係ニ依テ定マルノデアアル。即チ限界收益均等ノ原理ガ價格論ノ基礎タルベキモノデアアル。而シテ競爭價格ノ理論ハ此法則ニヨルニ非ザレバ成立シ得ナイノデアアル。又價格決定ノ要因トシテ如何ニ煩瑣ナル項目ヲ舉ゲヨウトモ、如何ニシテ純主觀的ナル欲望ヨリ客觀的ナル價格ガ成立スルカト言フコトニ對シテ根本的ノ説明ガ出來ナイ限り、其如キ研究ハ無意味デアリ空論デアルト言ハナケレバナラヌ。而シテ此事ハ限界收益均等ノ法則ヲ俟テ初メテ説明スルコトガ出來ルノデアアル。蓋シ收益ノ觀念主觀的價值判斷カラ客觀的價格ノ成立ニ至ル間ノ中介者